

容量2倍の 処理槽導入

ユニゾーン 新工場棟が完成

めっき加工のユニゾーン(富山市綾田町、梅田ひろ美社長)が本社に隣接する第8工場敷地内に建設していた新工場棟「写真」が完成し、来月から本格稼働させる。従来の約2倍の容量がある無電解ニッケルめっき処理槽を導入し、産業機械など大型部品の需要増に対応する。投資額は約8億円。

同社は2009年3月、北陸最大級の無電解ニッケルめっき専用の工場(第8工場)

を整備した。その後、太陽電池など環境エネルギー関連製造装置の需要が増加、より大型の部品受注にも対応するため、新工場棟を建設することにした。

新工場棟は2月に着工し、建物面積約814平方メートル。処理槽の容量は第8工場の2倍に当たる約4万リットルで、国内有数の規模という。重量約9・5トンの製品まで対応可能。薬品の作用で処理する無電解ニッケルめっきは、電気めっきより均一な厚さで加工ができる。新工場棟稼働で、精密部品から大型部品まで幅広い分野の受注を取り込んでいく。

